

小川町

～特定健康診査・特定保健指導等～

(1) 小川町の概要

(ア) 小川町の基本情報

小川町は、埼玉県の中央部よりやや西に位置し、東は嵐山町、南はときがわ町、西は秩父郡東秩父村、北は大里郡寄居町に接する面積 60.45 km²の町である。

首都圏より 60 km 圏に位置し、外秩父山系の山々に囲まれ、町の中央には槻川、兜川が流れる自然豊かな地形から「武蔵の小京都」「手すき和紙の町」として知られている。

昭和 50 年代以降、大型住宅団地が造られ、人口が急増したが、平成 9 年以降は人口が漸減し、近年では少子高齢化、若年層の転出などにより減少が続いている。

人口は、平成 9 年の 38,543 人をピークに減少し始め、平成 24 年では、33,652 人となり、平成 9 年に比べ 4,891 人減少している。

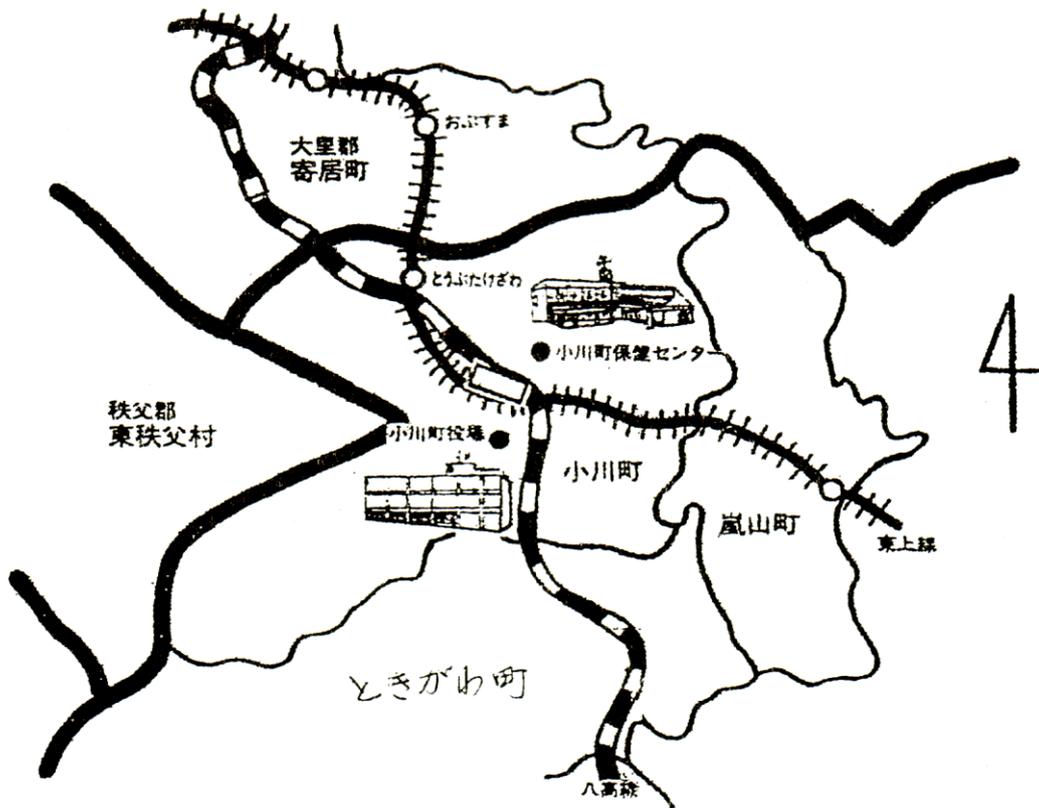
就業人口は、平成 12 年の 18,370 人から平成 22 年（速報値では 17,737 人へと 3.4% 減少となっている。産業別にみると、第 1 次産業就業人口は、平成 12 年の 654 人から平成 17 年には 605 人へと 7.5% 減少している。第 2 次産業就業人口は、6,615 人から 5,842 人へと 11.7% の減少、第 3 次産業就業人口は、10,939 人から 11,135 人へと 1.8% の増加となっている。

本町は、交通条件として東武東上線、JR 八高線、国道 254 号、県道などにより周辺都市と結ばれている。東武東上線で池袋から約 75 分の近さにあり、近年本数も増加し、平成 20 年 6 月には 13 号副都心線の乗り入れが開始され、輸送力の充実も図られてきた。

道路については、平成 16 年 3 月に関越自動車道の嵐山小川インターチェンジが設置され、アクセス道路の整備が進み、自動車交通は便利になっている。

①	面積	60.45 km ²
②	人口	33,679 人
③	②のうち 65 歳以上人口（再掲） ※【 】内は高齢化率	8,597 人 【 25.5% 】

(平成 24 年 1 月 1 日現在。町(丁)字別人口調査)



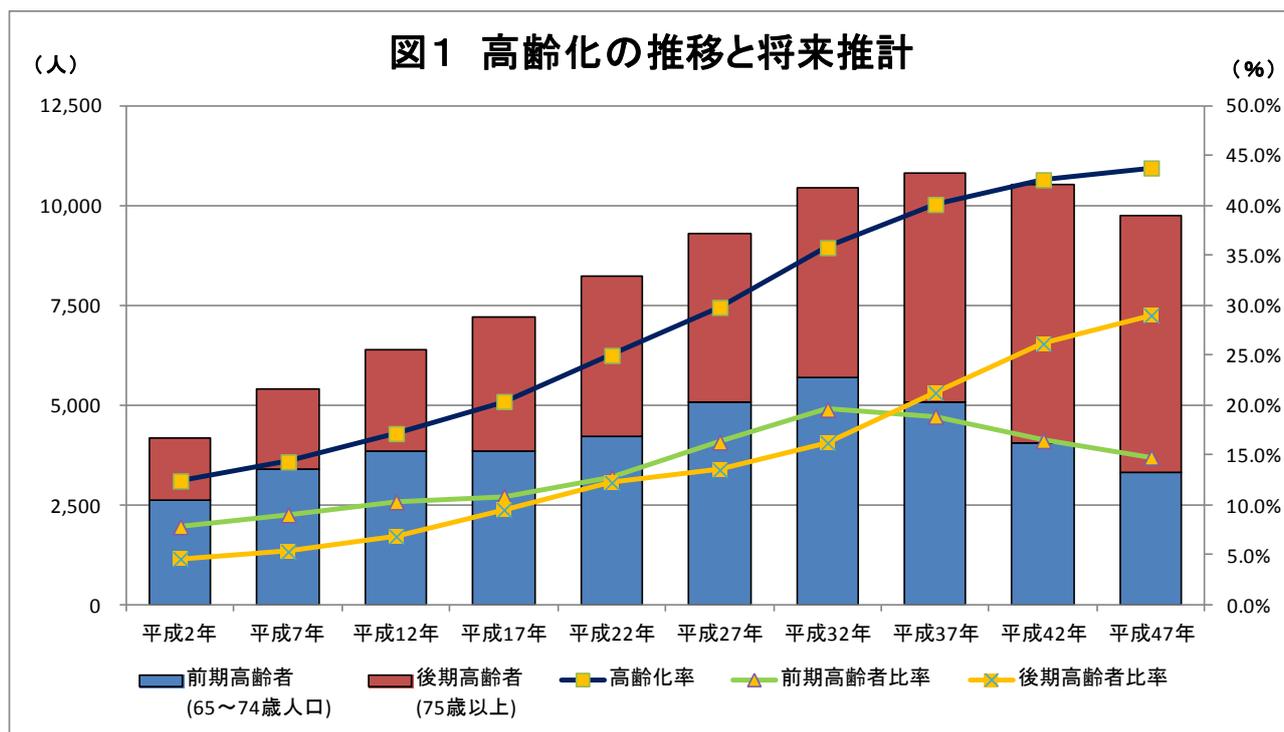
(イ) 人口分布概要と見込み

表1 高齢化の推移と将来推計人口

(人)

年	国勢調査人口					将来推計人口				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総人口	33,630	37,822	37,301	35,401	32,913	31,235	29,110	26,952	24,709	22,304
前期高齢者 (65～74歳人口)	2,629	3,407	3,845	3,842	4,195	5,087	5,694	5,085	4,060	3,294
後期高齢者 (75歳以上)	1,545	2,008	2,551	3,365	4,026	4,216	4,719	5,722	6,457	6,463
高齢化率	12.4%	14.3%	17.1%	20.4%	25.0%	29.8%	35.8%	40.1%	42.6%	43.7%
前期高齢者比率	7.8%	9.0%	10.3%	10.9%	12.7%	16.3%	19.6%	18.9%	16.4%	14.8%
後期高齢者比率	4.6%	5.3%	6.8%	9.5%	12.2%	13.5%	16.2%	21.2%	26.1%	29.0%

平成22年までは、国勢調査人口
平成27年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計)(H17国勢調査から推計)



(2) 小川町の取組

(ア) 取組の概要

① 特定健康診査・特定保健指導

1. 特定健康診査

目 的：高齢者医療の確保に関する法律に基づき、小川町国民健康保険が、40～74歳の被保険者を対象として、内臓脂肪型肥満に着目した健康診査を実施し、もって生活習慣病の予防を目的とする。

対 象 者：実施年度の4月1日現在、国民健康保険加入者で、実施期間中継続して、保険に加入している40歳～75歳未満の者

実施期間：7月～12月

一部負担金：1,000円

周知方法：保健事業計画、広報等

方 法：個別方式（健康増進課は国民健康保険より執行委任を受け、健診・指導を実施）

受診券郵送⇒直接指定医療機関で受診⇒健診結果のリスク因子の重なりによる階層化⇒階層化別（動機付け・積極的支援；個別、情報提供；集団）の結果説明会を実施⇒メタボリック症候群・予備群該当者等は、6か月間の継続的保健指導を行い、評価する。

*二次健診対象者には、二次健診の受診勧奨・保健指導の実施

健診項目：基本的な健診項目（国基準）、追加項目（町独自）眼底健診（町独自）を実施

<基本的な健診項目>

問診・身体計測（身長・体重・BMI・腹囲）・理学的検査（身体診察）・血圧測定・血液生化学検査（中性脂肪・HDL・LDL コレステロール）・肝機能（GOT・GPT・ γ -GT）・血糖検査（空腹時血糖・HbA1c）・尿検査（尿糖・尿蛋白）

<追加健診項目>

尿酸・クレアチニン・貧血検査（赤血球数・ヘマトクリット値・血色素数）

*尿検査（潜血）*心電図検査

<眼底健診>

*眼底検査（定期的に眼底検査をしている人は除く）

*平成22年度より追加項目として全員実施

実施状況

（単位：人・%）

	健診対象者数	健診受診者数	健診受診率
平成20年度	6357	1829	28.8
平成21年度	6390	1252	19.6
平成22年度	6394	1654	25.9

※法定報告による。健診受診者数については、人間ドック、協力データも含む。

2. 二次健診

対 象：特定健康診査の結果で、メタボリック症候群等に該当した者、GFR60%以下の者、糖尿病と血圧のリスク因子が重複している者には、3項目（微量アルブミン尿、75g糖負荷試験、頸動脈エコー）実施し、LDL高値の者には1項目（頸動脈エコー）実施

検査項目：微量アルブミン尿・75g糖負荷試験・頸動脈エコー検査

実施状況 (単位：人・%)

	年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
	対象者	480	371	488
	実施人数	235	190	197
	実施率	49.0	51.2	40.4
心電図	実施人数	235	187	
	所見あり	59	48	
	%	25.1	25.7	
眼底検査	実施人数	235	187	
	所見あり	65	54	
	%	27.7	28.9	
糖負荷試験	実施人数	155	116	118
	正常	72	55	66
	%	46.5	47.4	55.9
	境界型糖尿病	48	50	44
	%	31.0	43.1	37.3
	糖尿病型	18	11	8
	%	11.6	9.5	6.8
	治療中	3	0	0
%	1.9	0	0	
頸動脈エコー	実施人数	235	190	197
	所見あり	126	64	64
	%	53.6	33.7	32.5
	甲状腺所見あり	11	16	8
	%	4.7	8.4	4.0
微量アルブミン尿	実施人数	155	126	129
	0-29	134	105	109
	%	86.5	83.3	84.5
	30-300	18	19	18
	%	11.6	15.1	13.9
	300以上	2	2	2
	%	1.3	1.6	1.6

3. 特定健康診査結果説明会（集団）

対 象：特定健康診査受診者で、メタボリック症候群・予備群等に該当しなかった者

スタッフ：保健師 4

実施状況 (単位：回・人)

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
実 施 回 数	36	30	31
参 加 人 数	836	612	751

4. 特定健康診査結果説明会（集団）

対 象：特定健康診査受診結果の階層化により、動機付け・積極的支援に該当した者等

方 法：健診結果に基づいた身体のメカニズムと食について保健指導を行う

実施状況

	保健指導 対象者数	保健指導 終了者数	特定保健指導 終了者の割合 (%)
平成 20 年度	252	101	40.1
平成 21 年度	159	126	79.2
平成 22 年度	207	155	74.9

※法定報告による。

5. 個別保健指導

内 容：特定保健指導対象者以外の訪問及び面接等による個別指導

実施状況 (単位：人)

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
メタボリック症候群 該 当 者	163	102	107
メタボリック症候群 予備群該当者	74	45	59
75 歳になる人		49	47
栄 養 指 導	30	29	30
そ の 他	340	336	352

② まとめ

小川町では特定健診の結果説明を集団と個別に分け受診者全員に実施した。特定保健指導対象者は結果説明と初回面接が同時実施となるため、指導率が高い傾向にあった。

反面受診率は低く、結果返しが遅かったり結果説明に来るのが大変という町民の声もあったため、今後は実施方法を検討する必要があると思われる。

(イ) まとめ

小川町では特定健診の結果説明を集団と個別に分け受診者全員に実施した。特定保健指導対象者は結果説明と初回面接が同時実施となるため、指導率が高い傾向にあった。

反面受診率は低く、結果返しが遅かったり結果説明に来るのが大変という町民の声もあったため、今後は実施方法を検討する必要があると思われる。